

hap·py→
go→
luck·y

はぴ
0号

スタートダッシュ号

2008年4月発行

編集・発行

さいたま市立中央図書館

浦和区東高砂町 11-1

TEL 871-2100

FAX 884-5500

<http://www.lib.city.saitama.jp/>

形 (人の行動などが)
のんきな、きらくな

名 10代におくる本の紹介紙

はぴ はじめました

「幸魂（さきみたま）」ということばを
知っていますか？「埼玉」という地名の由来
ともいわれ、「人に幸福を与える霊魂」という意味が
あるそうです。紙名の『hap·py-go-luck·y』は
「幸魂」から「happy」と「lucky」のイメージをもらいました。

「はぴ」と呼んでかわいがって下さい。

発行ペースは年4回。

末永くよろしく申し上げます。

はじめましてのスタートダッシュ号では

「はじめて」を特集しました。

誰にでも、どんなことにも「はじめて」ってありますよね。

「はじめての匂い」「はじめての味」、「はじめて見るもの」

「はじめて聞くもの」「はじめて触れるもの」、

そして「はじめて感じる気持ち」……。

いくつになっても未知の物事に出会えば、慣れた状態に

ただずんでいるよりは、刺激になります。

それが楽しいことやうれしいことでなくても、「はじめて」は、

ほんの少し生まれ変わるきっかけになるかもしれません。

「はぴ」編集部は、みなさんにすてきな「はじめて」が

たくさんあるように、応援の気持ちを込めて

10冊の本を紹介します。



はじめて

 7つの短編がきらきらの高校生活をご案内。

舞台は、とある地方都市の北高校。ここはさいたま市と違って、周りは田んぼと山、東京まで新幹線で4時間もかかる田舎の高校です。

環境こそ違っても、笑顔も涙も悩みもいろいろ詰まった高校生活は同じ。いくつか紹介すると…

入学してはじめてできた友達の变化にとまどう「タンポポのわたげみたいだね」

大学進学のために上京しひとり暮らしをはじめる喜びや不安と、生まれ育った故郷の家族や大切な人と離れる寂しさが入り混じる—
「雪の降る街 春に散る花」

★これがイチオシ★



『檸檬のころ』
豊島ミホ作
幻冬舎 2005年

音楽漬けの毎日を通してきた女子高生には、突然飛び込んできた恋への思いがあふれます。
世界が変わる。全てだと思っていたものが、全てではなくなる。少しの恐れはあって、でも前に進みたいという気持ちが圧倒的に勝る。—「ラブソング」

恋や進学だけじゃない、すべてのはじめてにつながる、気持ちの詰め合わせをお送りします。

豊島ミホの作品はほかにも多数あります。エッセイ『底辺女子高生』（幻冬舎 2006）では作者自身のおかしくせつない高校生活が披露されています。

はじめてしまった 

ぼくは汗っかきのデブだ。名前はトロイ。ニューヨークに住む17歳のさえない高校生。ある日地下鉄のホームで、ぼくの高校の伝説のギタリスト、カートに声をかけられた。しかも、なぜか一緒にパンクバンドをはじめることになった。ただのデブがドラマーになんてなれるわけがないし、真面目な父さんは反対するに決まってる。でも、カートはぼくにニックネーム（ビッグT）をつけてくれたのはじめての友達だ。しかも奴は本当にライブの日取りを決めてきた！ドラマー・ビッグTの日々が無理やりはじめてしまった！

自分に自信がなく、すぐに落ち込むトロイが、破滅的なカートと繰り広げる奇妙な青春物語。父や弟との関係を見つめなおす家族の物語でもある。何かを始めることをためらっているわたしたちの背中をぐっくと押ししてくれる1冊。



『ビッグTと呼んでくれ』
K. L. ゴーイング作
浅尾敦則訳 徳間書店
2007年

さらに、はじめての本

 新しいことに挑戦

『漁師志願！』山下篤作 新潮社 2007年
都会でフリーターをしていた智志。なんとなく過ごす日々を変えたくて、未経験の漁師の仕事のために瀬戸内海の小さな島に向かう。相棒は無口な真二。娯楽もなく知り合いもいない土地で、不慣れた漁師生活が始まる。

 はじまりの形

『卵、いろいろ 一卵からかえる—』
ロバート・バートン作 ジェーン・バートン/
キム・テイラー写真 吉行瑞子監訳
評論社 1994年

命のはじまり。さまざまな色や大きさの卵たち。鳥や昆虫の赤ちゃんが、殻を破ってうまれてくるまでを写真で紹介。

 人生のはじまり

『カレッジの決断』アイビーン・ワイマン作
瓜生知寿子訳 偕成社 1998年

現代のアメリカで、昔ながらの風習を守り生活するアーミッシュの人々。家事よりも勉強に興味のあるカレッジは、アーミッシュの暮らしに疑問を感じる。このまま残るか、それとも外の世界に飛び出すか。カレッジは人生の決断にせまられる。

 はじめて考える

『海辺のくま』クレイ・カーミッセル作
江國香織訳 BL出版 1997年

「とうさんさえてくれたらなあ」。海辺で少女クララと住むくまが、とうさんを探し歩く。とうさんってどんな感じ？ぼくのうちはどこ？小さくてもがはじめて自分の心に向き合う絵本。

 生まれ変わるために…

『カラフル』森絵都作 理論社 1998年

「おめでとうございます、抽選にあたりました！」生まれ変わるチャンスを手に入れた魂が、中学3年生の体を借りて下界で生活をはじめ。はたして、無事に修行を終えて、魂は生まれ変わるか？

 はじめての経験、はじめての気持ち
『マリアからの手紙』グレーテリース・ホルム作
伊佐山真実訳 徳間書店 1995年

14歳の若さで重い心臓病にかかり、心臓移植を待つマリア。人生の終わりが見えたとき、真剣に考え始めた。生きる意味、平和、永遠…。そしてはじめての恋。短い期間に体験したこと、感じたことを、ちいさな妹に伝えるために書き記した手紙。



ほんの ひととき。



今日も「おはつ」

お日さま おはよう
新しい朝を ありがとう
今日という日の あちこちに
いろんな「おはつ」が
まっている
そうなんだ
世界は まいにち生まれたて
世界は まいにち「おはつ」！

♪ あなただけの「お・は・つ」さがし

『おはつ』 工藤直子作 小学館 2004年

まいにちおなじみただいけれど、まるまって眠っていたソテツの若葉は、ゆっくりと目をさまし「おはつ」のうたをうたいます。見なれたはずのコーヒーカップは、「お初にお目にかかります」とあざやかな姿を見せてくれる。いきものたちのため息やささやきが、まわりにあふれ、まばたきするたびにいろんな「おはつ」があらわれる。『のはらうた』で有名な工藤直子さんのフォトポエム絵本。

* * * * *

🕒 はじまりの朝！

『メアリー・スミス』アンドレア・ユーレン作 千葉茂樹訳

光村教育図書 2004年

よあけはまだまださきなのに、メアリー・スミスはもうおでかけだ。ゴムのチューブにかわいた豆をこめてプッ！とひとふき。まどにめいちゅう。こうして町のみんなをつぎつぎに起こし、町はいつもどおりにごきだす……。

信用できるめざまし時計が安く手に入るようになる前に、ロンドンに実在したノッカー・アップ（めざまし屋）をモデルにした絵本。



次回予告

1号(7月)のテーマは
“恋愛”

